

第5回 南阿波定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議要旨

【日時】

令和4年1月11日（火） 午前10時から午前11時30分まで

【場所】

阿南市役所 305・306 委員会室

【出席者】

出席委員：荒井義之委員、一山稔委員、笠原まり委員、川尻竹藏委員、川人建介委員、上月康則委員、兒戸大佐委員、酒井勝利委員、千本寿史委員、田上洋子委員、鶴和正浩委員、戸田眞理子委員、南部宣雄委員、平山正光委員、紋田正富委員、山原鐵雄委員、湯浅隆幸委員、連記かよ子委員（18人）

欠席委員：網干和義委員、高須賀義雄委員、田中達治委員、富永俊彦委員、長谷宏昭委員、福岡久美子委員、湯浅眞智子委員（7人）

オブザーバー：那賀町総務課、美波町政策推進課、牟岐町総務課、海陽町まち・みらい課

阿南市：表原市長、各担当者部会（部会長・副部会長）

事務局：阿南市企画政策課

1. 開会（事務局）

- ・午前10時開会

2. 阿南市長あいさつ（表原阿南市長）

（表原市長あいさつ）

・平成26年に発表された増田レポートの中では、1,700以上ある自治体の半数以上が消滅自治体と呼ばれている。医療、福祉、介護、教育、防災、交通などの様々な行政サービスを1つの自治体で賄っていくのは困難であり、圏域自治体も含めてお互いに不足しているところは補いつつ、持続可能なまちを将来に残していくという理念のもとに、平成29年から1市4町で定住自立圏の取組が進められてきた。

・令和2年2月以来、約2年ぶりの開催となるが、新型コロナウイルスの脅威が私たちを脅かす中、人、物、お金、時間などの限られた資源をどのように組み合わせるべきかを進めていくべきなのかが課題となっている。

・私たちが地域として生き残っていくために定住自立圏の取組があるので、各委員の皆様にはそれぞれの立場で忌憚のない御意見を賜りますようお願いしたい。

3. 委員自己紹介

- ・出席委員による自己紹介
- ・欠席委員の報告

4. 会長及び副会長の選任

- ・会長については、懇談会設置要綱の規定に基づき、委員の互選により、徳島大学教授の上月康則氏に決定
(上月会長あいさつ)
- ・前任期に引き続き会長として県南の定住自立圏構想に参画させていただくのでよろしくをお願いします
- ・多くの方で様々なことを議論できる貴重な会なので、ぜひ御意見をいただきたい
- ・副会長については、懇談会設置要綱の規定に基づき、上月会長の指名により、阿南工業高等専門学校副校長の田中達治氏に決定

5. 議 事

(1) 第2次南阿波定住自立圏共生ビジョン(素案)について

①第2次南阿波定住自立圏共生ビジョン(素案)について【事務局説明】

<質疑応答等>

(委 員)

事業No.2(医師確保対策事業)について、現在、医療環境が我々の想像を絶するようなスピードで変わってきており、今までの支援も有り難いが県南の中核病院として対応していくために更に支援をお願いしたい。

(事 務 局)

1市2町の時代からのメインテーマであった阿南共栄病院と阿南医師会中央病院の合併が無事に成立し、令和元年より阿南医療センターが開院されたことで、圏域においても医療分野は特に重点分野として認識している。阿南市としても中心市として引き続き圏域の中核病院の支援に真摯に取り組んでいきたい。

(委 員)

事業No.9(鳥獣被害防止対策事業)について、鳥獣被害は現在も増加傾向にあるように見受けられるが、第2次共生ビジョンでは目標値が5,300頭から4,700頭に下がっていることについてどのように考えているのか。

（事務局）

担当部署においては令和3年度の見込が4,726頭であったことをベースに設定したのではないかと思う。委員御指摘のとおり増加傾向ということであれば、5年間の数字のばらつきも考慮しつつ再度KPI数値の適正について精査する。

（委員）

事業No.23（婚活支援連携体制整備事業）について、那賀町では平成18年に那賀町縁むすびの会を立ち上げて、コロナ禍でイベントがなかなかできない中でもなんとか活動を続けてきた。会には阿南市や美波町など町外の方もたくさん入会されているので、那賀町以外の市町にも窓口があれば人口減少の問題も少しは解決するのではないかと思う。1つの町で進めていくには限界があるので、こうしたネットワークを組んでいるところでなんとか御協力いただきたい。

（企画部長）

市が直接婚活に携わるのはいかがなものかということで市の阿南de愛隊が解散となったが、その会の中に社会福祉協議会などそれぞれの市で婚活支援をしている団体が入っており、そのまま残っているのので、団体同士で連携を取りながら進めていってほしい。

（会長）

ビジョンに数値としてあげておくのは有益だと思うので、検討してほしい。

（委員）

事業No.30（火葬場使用料軽減事業）について、火葬場の使用料は市外料金を調整して2分の1にしているが、今後はどのようにするのか。

（事務局）

現在、市外の方の使用料は8万円だが、圏域の方は4万円になっている。減額した4万円のうち半額を各町が負担するという制度で1市2町で取り組んでいる。現時点では使用料金等の改定は予定していない。

（委員）

事業No.18（高速自動車道整備促進事業）について、コロナ禍で中央への要望ができない状況の中で、県南に若者が残るためには道路整備が1つの大きな方法である。なかなか目に見えて成果が見られないので、もう少し要望活動を協力的に進めていきたいと思うが予定はどうか。

(事務局)

第2次共生ビジョンのKPIとして現状維持が多い中で、高速自動車道整備促進事業の要望活動については2回から4回に倍増させており、圏域の重要事項としてさらに推進していきたい。

(会長)

事業No.21(地元農産物魅力アップ事業)について、パンフレットを1,000部配布することとなっているが、パンフレットの時代でも無いし何を成果とするのか。

事業No.34(職員研修参加交流事業)について、コロナの影響でKPIの数値が50になっているが、職員間で議論することはとても大切なことなので100くらいにするように検討できないか。

(産業部長)

パンフレットだと捨てられる可能性があるので、2月に開催される活竹祭では各市町の特産物等をプリントしたエコバッグを配布するようになっており、定住自立圏のPRに繋がると思う。

(委員)

定住自立圏の事業ではないかもしれないが、那賀川町の道の駅の見た目が悪くなっているので農産物強化を図っていくためにも整備していただきたい。

(会長)

鳴門市で道の駅も完成しており競争も激しくなっているので大事なことだと思う。

(企画部長)

阿南市と4町が合同で職員研修を行っているが、ランクの高い講師を招聘すると費用が嵩む。構成町からどういう研修をしてほしいかという要望を聞きながら実施をしていきたい。今回のKPIの数値については検討してみる。

(委員)

コロナ禍でなかなか訓練ができないが、先日、阿南市と県とで防災訓練をしたのが大変参考になったので、コロナが収束したら是非ともこういう訓練をしていただきたい。

事業No.32(女性支援パートナーシップ支援事業)について、DVは子どもの頃に親の姿を見てなることが多いので、私たちは人権擁護委員として子どもたちにDVを起こさないよう運動をしている。阿南市も含めて一緒に進めていきたい。

（市民部長）

今後も各学校のDV関係の講演を考えているのでよろしくお願いします。

（会長）

阿南市と美波町が広域で避難するというのは、これからの津波の避難でとても大切なことになっていく内容である。そういったことの先駆けとして、遠方から助けにきてもらうというよりは隣の町と助け合うことは全国的にも非常に注目されていることなので、地域でどんどん広めていっていただけたらと思う。

（委員）

空き家対策について、新しい家もたくさん空き家となっているので何とか活用できるよう定住自立圏で検討していただきたい。

（委員）

私のNPO法人では、移住・定住支援として海陽町役場のまち・みらい課と連携して空き家調査をしたり、移住者に空き家の案内をしている。自分の町だけで進めようと思っただら空き家の数も限られたり、移住者が仕事や生活スタイルでなじめていない場合もあるのだが、その時は移住コーディネーターの研修で情報共有したり、できるだけ広域で対応を考えている。

事業No.22（空き家情報の連携事業）について、表の数字はどういった形で出したものなのか。

（事務局）

数値の集計については、圏域からの数字の合計値となっている。平成29年度をゴールとしていたので今となっては数値が低くなっているが、次期ビジョンについては目標値を上方修正している。

また、定住でどこまで対応できるかについては県でも四国の右下で行っている部分があり、定住自立圏と県の取組がバラバラにならないように定住自立圏でできることは実施していくよう考える余地があるのではないかと思う。

（会長）

年末のテレビではDMVのことが結構話題になっていたが、このことについてはどうか。

（委員）

世界初が走るまち海陽町ということで、婦人会が案内をしたり特産物を発信したりして

すごく頑張っている。それなりにお客様も来てくれているが、コロナの状況もあり呼び込みに躊躇する部分もあったり、リピーターになってもらう工夫がなかなか定まっていない。美波町や牟岐町、近隣の東陽町も一緒になって考えてくれているので、行政だけではなく、住民も意識を持って県南の機運を高めていけたらいいのではないかな。

（産業部長）

DMVについては、かなり好評ということで四国の観光局が中心になってPRが進んでいるところであり、南阿波定住自立圏としても新たな観光資源にしていきたい。現在のコロナ禍ではなかなか観光を受け入れられない状況ではあるが、なんとかPRをして地域の産業等に繋がっていくような戦略を描いていきたいと考えている。

（委員）

海陽町の委員さんからの御発言や担当者の前向きな話があり大変嬉しく思っている。他県からの視察の話も決まっておき、海陽町としてはこれからもDMVのPRを続けて集客に努力していかなければならない。もしこの圏域でイベント等がある場合に教えていただければ、パンフレットを送ったり担当者が出向いて説明をするので今後ご支援をお願いしたい。

（会長）

事業No.12（竹資源等有効活用推進事業）について、ここ1、2年はコロナの影響で数字が落ち込んでいるが、平成30年度は118t、令和元年度は51tもあるのでコロナが収束した時の数字をご検討いただきたい。

（市長）

それぞれの市町における現状も含めて忌憚のない御意見をいただきありがとうございました。先ほど中央要望に関する御意見をいただいたが、私もコロナ感染が落ち着いた10月以降に5回ほど中央に参りました。私たちの地域を持続可能なまちとして、産業振興や人口減少対策をどう進めていくのかというビジョンを示していかないとなかなか中央には届かないということを思い知らされることが多々あった。地域にある何もかもというのは難しいかもしれないが、磨けば光る要素というのはそれぞれの地域にあるので、付加価値を高めるためにどうしていくのかを中央の担当課に熱く訴えるための資料作りに取り組んでいるところである。デジタル田園都市構想の推進も含めた国策にしっかりと歩調を合わせる形で、市としても新たなシティプロモーションのあり方についてしっかりと検討していきたい。

次期共生ビジョンについても、皆様に引き続き御理解とさらなる御協力をお願いしたい。

6. その他

- ・ 懇談会の予定について事務局から説明

7. 閉 会

(上月会長あいさつ)

- ・ 本日より予定していた議事は終了します。本日はありがとうございました。